

CHAO LETTER

ジャパ・ベトナム報告 No.3

チャレンジ 2021! **困難に立ち向かう!**

発行者：ジャパ・ベトナム事務局 発行日：2021年9月13日

ベトナムに関心のある皆さんへ

安藤 勇

コロナパンデミックがジャパ・ベトナムにもたらした変化は大きいと見えます。現地を訪れることが不可能だったのに、私たちがベトナムで支援している各プロジェクトの代表者と前より強い繋がりを得ることができました。

普段、東京で行っているスタッフミーティングを通じて、ベトナムの一部の方と ZOOM を使って、現地の状況はどうなっているのかを直接に彼らから聞くことができるようになり、必要な支援をお互いに検討を図れるようになってきました。そしてまた、直接に連絡が取れない他の相手となるべく email を使いコンタクトを取り、住民が置かれている状況を詳しく知ることができました。結局、お互いの人間関係が少しでも強まった気がします。

一つ気が付いたのは、レベルが違って、日本もベトナムもコロナパンデミックのために、大きな悩みを抱えています。そこで、ベトナムのプロジェクト運営に関しては、その対象になっている人たちが社会の底辺に陥られているものですから、パンデミックのせいで最も傷つきやすくなっています。従って、生き残るには、まず優先に食料、薬、安い仕事を獲得する必要があります。

今日、日本には 40 万人ぐらい技能実習生などの若いベトナム人が滞在していると思われます。実は、彼ら/彼女らの多くは今までやってきた仕事を失い、収入が亡くなったので、家賃も払えなくて、食料でさえ十分に手に入れないので、毎日の暮らしも厳しくなりました。不安定さの中で一部の人は、運がよければ安いアルバイトを見つけるかもしれませんが。

先日まで、私は入院していた病院で、ベトナム人らしい若い女性が看護師の業務に従事しているのに出会いました。聞いてみると苦勞が多いようです。患者の世話の他に、理解しやすいような表示や表記が必要で、申し送りもわかりやすい言葉ではっきりと話さなければ、患者にも仲間にも伝わりません。とにかく、ベトナムに残されている両親、兄弟の状況を心配していて、重い借金の返済もまだ残っていますので、一所懸命に頑張るだけしか方法がありません。それにしても、働く場がある彼女はほんの一部の例外に過ぎないと感じました。

ベトナムの現状

岬 心一

ベトナムは、今無残にもコロナ対策で失敗しつつあります。その理由はここ一か月以上政府が社会隔離措置を実施したにもかかわらず、いっこうに感染者の数が減りません。逆に増える一方である。そして 8/22 からまた 2 週間の延長…なぜ隔離しているにもかかわらず、増えるのかが謎である。かつては新型コロナウイルス対策で成功した国と自信を誇っていましたが、その自信も今や焦りに変わりつつあるのは見てとれます。そもそも情報は正確に把握されていないだけではないだろうか。それとも成功に甘んじて侵入を許してしまったのか。

今日 8 月 22 日ベトナムの HO CHI MINH のお隣の LONG AN 省では引き続き 2 週間外出禁止の隔離措置が実施されたが、今度は 1 週間に一度買い物のために外出が許される

のではなく、2週間外出禁止ときた。それで皆は大急ぎで買い出しに出かけたが、買えるものがほとんどなかった。外出した際に目に入ってくる光景は、家や工場の前に赤や黄色テープが張られている。これはそこに陽性の人がいるから近寄るなということの意味している。また、中にいる人は出入りが禁止されている。隔離されているところは買い出し等できないので親族や知人に頼らざるを得ない。近くに親族や知人がいない場合はどうするのか。その自治体に頼らざるを得ないがそれは見込めない。SNS 上で食料支援等の批判が多くみられる。

ニュース等では国からの援助があるみたいだが期待できないのが実状である。ここ数週間前FACE BOOK や知人からの呼びかけで、とある地区で隔離されていて外出ができずに食料も底を着いてしまい、非常に困っていると耳に入っただけで皆で力を合わせ急いで食料の支援に回った。陽性で隔離されているある寮にその食料を届けたら、予想外に中からたくさんの人たちが出てきて喜んでいたのでいまでも印象に残っている。この人たちは田舎から都会に出稼ぎに来ているのだが、今は仕事もなければ収入もないため生活を維持するのに精一杯な状況で、一応自治体からの支援はあるみたいだが微々たるものだと言った。

ワクチン接種についても全然行き届いていない。現地の多くの人たちは中国製のワクチン接種を恐れているみたいである。しかし現在そんな悠長なこととも言えず、対策として一番有効的なのはワクチンしかないが接種が進んでいないのが現実。現在仮に感染してしまった場合、病院で治療を受けられる期待はできない。ベトナムの医療システムは先進国と違ってまだ進んでいないからである。



感染者の隔離状態



支援物質が集まる



支援物質を分配



針の穴からコロナが流行する HCM 市を見る

村山 良忠

私は、今、1区のリタントン通りにあるハム(路地)にある下宿屋に住んでいる。このハムは、感染者が出たために6月22日から2週間半封鎖された。その日のうちにハムの住人すべてに、ブルーシートのような防護服を着た人々によってPCR検査が行われた。この時、私は驚いた。せいぜい3分もあれば一回りできてしまうだろうハムに、こんなにたくさんの人が住んでいたんだと。HCMは過密都市なのだと。私は感染者(FOと呼んでいる)の人とまったく接触がないが、このハムに住むベトナム人同士は密接に行き来しているはずだと思った。

4月末、流行がまだ北部に集中したころ、HCM 市当局はすでに危機感を抱いていたのだろう。連休で北部に遊びに行っていた私が勤める大学の職員は、帰宅指示が出され、2週間の自宅隔離をさせられたそうだ。映画館等の人が集まる施設は、早々と閉鎖され、大学の授業開始も延期された。私自身、昨年のことを思い、石橋を叩いて渡る念の入れようだなと思っていた。

HCM 市当局の危機感の方が正しかったことはすぐにわかることになる。パスター通りの職場に勤める人の発病が1人目だったと思う。当局は関係地区を封鎖し、囲い込もうとした。しかし、そうしている間に、多人数が集まってはいけないという規制にもかかわらず集会を開いていたある宗教団体によって大規模なクラスターが発生し、それが口火を切ったかのように、市域各地に患者が発生した。昨年の流行は、外から入ってきたものを囲い込めばよかったが、今年の流行は、連休中の人々の移動によってもたらされた疫病が、市内各地で埋火のようになっていて、ある時、次々に発火し始め、内側から崩れていった感じだった。

HCM 市には「ホーチミン市コロナ地図」というものがあり、スマホで情報を見ることができる。コロナの陽性患者や封鎖箇所などの情報が表示される。患者をタップすると、その人の性別、年齢、居住地域、発病日などが分かる。私も、自分の住むヘムに陽性患者の人数が付いたのを見て、コロナが身近に迫ったことを感じた。しかし、今や、この地図は人々に警戒を促す機能を果たすこともできない。見ての通り市は人型で埋め尽くされ、怪物コロナの有様である。真ん中に開いた怪物の口はタンソンニャット空港である。

コロナ禍の HCM で力を尽くす人たち

島村 晶子

HCM 市の新規感染者、死者の数は、9月半ばの現在もベトナム全土で突出しています。市民は許可証なしでは外に出られず、食料品は軍や行政担当者が買い物を代行して届けるといった比類ない外出規制で、ジャパ・ベトナム が支援するグループは、思うように活動できないことに胸を痛めています。それでもなんとか策を講じて食糧や薬を届けようと奮闘している姿が、現地からの便りでわかります。彼らは、パンデミック下で真っ先に困るのは、日頃から支援している人たちだとよく知っています。その日暮らしの人々は、いとも簡単に失職し、食べるものがなくなり、家を追われます。病気を持っていればなおさらのことです。規制下で自身の生活も大変なはずなのに、支援グループは、彼らを頼みの綱とする弱者に常に目を向け、力を尽くしています。

活動の可能範囲は状況により変わってくるので、機を逃さずに役立ててもらえるよう、ジャパ・ベトナム は、今回の支援金をパンデミック下の緊急支援に用いることを認めています。状況が好転して、早くよい報告を皆さまにお伝えできることを祈っています。

Ta Do プロジェクト

(ブラザー Nguyen Viet Bao (5月18日) のレポートより)

五井 邦宏

Ta Do (T à Dơ) 、Viet Kiều (越僑) Village の名前でも一般的に知られている。集落は Tây Ninh 省, Tân Châu 郡に属す Tân Thành コミューン (タイニン省のタンチャウ地区のタントンコミュニティ) に属しています。村には現在 250 世帯があり、彼らは、カンボジアから移住したベトナム人の居留民です。かつて大きな湖トンレサップ地域に住んでいたため、ベトナムに戻って移住したときには、また、湖の近くに住む場所を探します。彼らは「なにも持たない人々」として知られています。すなわち、帰国後は、長い間故郷を離

れていたため、ベトナム人でありながらも、国籍、出生・身分証明書、土地、家がなく、教育も受けていないのでとても多くの困難にあわざるを得ません。特に彼らの子供たちが教育にアクセスする際に多くの困難に直面しています。地方政府も子供たちを学校に送る支援を始め、家庭環境も親の考えもまた学習を重視していますが、両親が副業として漁をしたり、宝くじを売ったりまた家で子供の世話をしなければならないことで、多く子供たちが勉強を止めています。ここのほとんどの世帯には多くの子供がいて、各家族には少なくとも3人の子供、次いで5～7人の子供がいます。雨の季節によっては生活が不安定で、漁をしたり、キャッサバ工場やゴム畑で雇用され収入を得たりして日々をしのいでいます。

過去3年以上の間、私たち兄弟はこの場所の同胞の生活を物質と精神面の援助を頑張っ
て続けています、特にカンボジアからベトナムの Tà Dờ 村と Tân Trung 村に戻って居住する
貧しい学生たちと子供たちに対して行ってきました。私たちは、証明書のないまた学校に
行く年を過ぎた子供たちに、ベトナム語を読むこと算数の基本を教えるクラスを開いていま
す。しかし新型コロナのために、目下のところすべての活動が休止されています。地方
政府と一緒に、6人の子供が来年度学校に行く為に必要な書類を作っていますが、まだ
かなりの子供がコミュニティの決定を待ち続けています。

私たちはこれからも自ら努力して、子供たちみな学校に行く機会を得られるよう支
援します。その上で、私たちも各プログラムと、そのほか1年以上行っている”毎日1箱
のミルク”プログラムのような活動を開催します。支援を受ける子供の数は、50人から
180人まで増えています。毎月曜、水曜、金曜は定期的な学習活動は休み、私たちは通
常集団で子供たちのために次のようなゲームを行います。(図画、算数遊び、サッカー、
バトミントン、羽けり、縄跳び、フォーク遊びなど。)2021年3月には、地方
政府と協力して、去年の学習の間に優れた成績を修める子供に奨学金を渡しまし
た。特に上記の活動に加えて、私たちも各チャリティーグループと一緒に、と
ても厳しい環境の家庭や子供にプレゼントをしました。現在、私たちは「子供を学
校に行かせる援助」2021-2022年のプログラムを続けるための考察を行って
います。私たちは、家庭環境が苦しく家が学校から遠い子供たちに自
転車を届ける計画をしています。また学習の間に良い成績に達した子供
たちに奨励する賞品を渡す、また、家族の状況が苦しい子供には、教材、
ノート、学用品を支援することです。





日本で生活するベトナム人技能実習生

有吉和子

私は外国人技能実習生権利ネットワーク（NPO）の会員として、現在ベトナム人技能実習生や留学生の相談に対応しています。

日本で働けば高収入を得て、親孝行できるという希望をもって訪れるベトナムの若者が年々増加しています。留学生といっても、彼らの多くは学業よりもアルバイトをしながらの労働優先の生活です。仕事の疲れから授業中は睡眠時間になっています。それを知りながら、留学生を募集し入学させる日本の学校の問題も聞こえてきます。

新型コロナウイルスの影響を受ける在日ベトナム人からの相談が、2020年の2月頃、カトリックの司祭や修道者に多く寄せられるようになりました。生活困窮を訴えるベトナム人のおよそ半数が技能実習生や留学生です。コロナ禍での実習先の業績悪化や倒産などによる賃金不払いや解雇など技能実習生の労働問題の対応のために、2020年6月から支援団体とカトリック教会が共催して、技能実習生や留学生を対象にした「緊急ホットライン相談会」が東京を中心に全国の拠点を結んで共同実施されるようになりました。相談内容は、コロナ以前からの技能実習生・外国人労働者を取り巻く課題（債務、転職できない、パワハラ、暴力、いじめ、低賃金など）とコロナ禍での課題（会社の倒産、仕事が減少し休業手当が出ない、解雇、帰国困難）などが絡みあい、問題は複雑化しています。また、8月28日に開催された第11回ホットラインでは「コロナに感染したが、会社からすぐ戻れと言われて就労した。しかしすぐに就労したことでまた体調が悪化した。」「コロナに罹患したため解雇された。」などの相談もありました。最近では妊娠・出産についての相談も増えています。彼らの多くは「技能実習生は妊娠してはいけない」と思い込まされています。法律上決してそうではなく、むしろ守り、保証してあげるべきなのに、契約書に「妊娠してはいけない」と記載されていたり、ベトナムの送り出し機関から脅されていたりするケースもあります。日本での出産が難しいため、妊娠した時に帰国せざるを得ないという状況もあります。ホットライン相談の支援団体では、今後これらの妊娠・出産・育児についてやコロナに感染した技能実習生への支援も考え、行動していくことになりました。

多くの実習生は人間としての尊厳は大切にされず、即戦力として安価な労働力のように扱われています。本来、彼らは来日前の研修で日本語を学んでくることになっていますが、3年間の実習後も日本語を理解することが難しいようです。日本語をはじめ実習に必要な教育もなされないまま来日します。日本に来てからも受け入れ団体からきちんと研修を受けることなく、実習先の会社もベトナム語の通訳がない状態で彼らを受け入れているところが多いです。言葉が通じないことで実習生にイラつき、暴言や暴力をふるって、機械のように彼らを扱っているように感じます。また、彼らは借金をして日本に来る場合が多いのですが、その費用はベトナムの送り出し機関への手数料以外に、保証金、渡航前研修の学費、食費などがあり、大体一人100万円くらい払って日本に来ます。そのため、債務が残っていて追い詰められて失踪する実習生もいます。

未だに飛行機が飛ばず、帰国できないために在留期限が切れる実習生については政府が特定活動という延長ビザを発行しています。その間に特定技能という資格試験に合格すれば後5年間日本で実習を続けることができますが、そうでなければ、結局特定活動のビザが切れる前に母国に帰国しなければなりません。在留期間の延長のため特定活動ビザを希望する実習生の相談も増えています。コロナ禍のパンデミックが続く中、小さい立場に置かれたベトナム人技能実習生の身体的、精神的痛みの相談は続いています。

会計報告

小野浩美

いつも暖かいご支援をありがとうございます。

2021年度支援計画（決定）

- 財政状況により、基本的に1グループ20万円とした。*はHIV/AIDS基金から供出。
- 支援金をコロナパンデミック対策に使ってもよいことにした。

支援先	目的・内容	支援金額 (円)
フンチュン	X線撮像装置	200,000
ロンディエン	寮生生活費	200,000
ヴァングループ	ソーシャルワーカー教育、図書施設	200,000
ダイハイ	家修理、通学用自転車	100,000
タドウ	奨学金	200,000
コーチャン	水施設・奨学金	200,000
カマウ	通学用自転車	200,000
バクニン	* 奨学金	200,000
ティエンボン	* 薬代	200,000
スマイルグループ	* 子供教育	200,000
合計		1,900,000

会計報告（2020年5月27日～2021年9月6日）

		日本 (円)		ベトナム (KVND)	
収入	寄付金	2,753,940	0	前期繰越金	1,791,043
	助成金	200,000	0	当期収支	1,053,940
支出	支援金	1,900,000	0	次期繰越金	737,103
	活動費	0	0		83,808

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

(ご支援先) 郵便振替 00100-8-118761 JAPA VIETNAM
 銀行振込 三菱 UJF 銀行 店番号 315 普通預金 3544236
 JAPA VIETNAM 代表 安藤勇